国際石油開発帝石株式会社
INPEX CORPORATION

平成 23 年 11 月 22 日
国際石油開発帝石株式会社
広報・IR ユニット
（電話 03-5572-0233）

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油流出について［第五報］（お知らせ）

平成 23 年 11 月 18 日にお知らせしましたフラージ鉱区近傍の海上における油膜確認につきまして、プロジェクトオペレーターのシェブロン社からの情報によると、現在のところ判明している状況は以下の通りです。

- フラージ鉱区近傍の海上における油膜の量については、現在 3 m3（18bbl）程度となり、引き続き対策救助船を 18 隻動員し、オイルフェンスや海水面の油膜を吸収するスキミングを設置するなど、油膜の除去作業を実施しています。
- 現在、シェブロン社はこの事故によって流出した油の量を推定するべくデータを分析していますが、ブラジル国家石油庁（ANP）はこれまでの流出量の累計を 5,000～8,000bbls と推定しています。
- シェブロン社はこの事故が発見された後ただちに緊急対策チームを編成し、油膜量の減少に努めてきました。その結果、シェブロン社は原因と疑われた開発井の廃坑作業の一環としてセメンチング作業（井戸にセメントを充満し封じること）に成功し、油膜の発見から 4 日で油のしみ出しを止めることに成功しました。
- 現在、海底面からの油のしみ出し量は油滴程度に大幅に減少しております。
- 今回の油流出事故について、シェブロン社は、「シェブロンはこの事故に対して責任を持って油膜が完全に除去されるまで作業を続ける」とコメントしています。
- 引き続き詳細な事故原因は調査中ですが、予備調査の結果から考えられる今回の事故原因については次の通りです。掘削中の開発井を目的層へ向かって掘削していたところ、予想以上の圧力を持った地層に掘り込み、いわゆる“キック”（水、ガス、油またはその他の地層流体が坑井内に浸入してくること）が起きたと考えられています。この高圧層からの流入により坑井内の圧力が上昇し、坑内のある部分に油もれを生じさせ、流体が薄い割れ目を伝って、海底面まで到達したと考えられています。
- シェブロン社はブラジル政府関係機関と緊密な連携により、再発防止に協力していきます。

今後もシェブロン社と連携しつつ、同社からの更新情報が入りましたら、逐次お知らせいたします。

以上